猫はコタツで丸くなる

水橋　哩

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
猫はコタツで丸くなる

【Ｎコード】
Ｎ３８３４Ｚ

【作者名】
水橋　哩

【あらすじ】
コタツ・ファンタジー

プロローグ

我が家のコタツからは色々なモノが出てくる。
昨日は、火焔式の縄文土器が出てきた。そこそこ無難な物で助かった。４７ｃｍ砲の砲塔の先端部分がコタツ布団の端から出てこようとしていたから、慌てて押し戻したのは先週のことだったっけか。
このコタツを通して、あまりに沢山のモノと出会ったから、最近は大抵のことでは驚かなくなった。

今日も、ミカンのピラミッドを押し戴いたこの場所で、両手をその脇に投げ出してくつろぐ。ピラミッドの上に、私の黒髪が覆いかぶさる。染めるのも、切るのも面倒だから、大分伸びた。
そうして、午後１１時００分。毎日、気だるくテレビの画面を見るのはこの時間と決まっている。いつもと同じニュースが流れる。内容もさして変わらないから、左から右へと情報も流していく。
結局、私にとって有益な情報なんか無い。
必要なものは、全てこのコタツから。願えば何でも出てくる。労働の汗もいらないし、精神を擦り切らす必要も無い。だから、私がこのニュースからは何も得る必要が無い。あるとすれば、出演中の局アナの持つ美貌位だろうが、それすらも望めばこのコタツから出てくるだろう。
本来、無形であるはずの情報すら、この赤茶けた布団と床の隙間から出てくる。脳細胞に直接アクセスされる電気的な感覚に最初は慣れなかったが、今では快い感覚だ。それこそ、土曜日の朝、布団の中でのまどろみに似ているような気がする。

こうやって、寝そべってさえいれば、私は幸せだった。
全ての欲求はコタツが叶えてくれていた。

しかし、まぁ、なんというか…。

別れってのは突然来るものなのだな。

つづく。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3834z/

猫はコタツで丸くなる

2011年12月12日23時47分発行